

いわて男女共同参画プラン(素案)に係る県民意見等検討一覧表

番号	プラン素案項目			意 見	類似意見件数 (件)	検討結果(県の考え方)	決定への 反映状況
	大区分	中区分	小区分				
1	②第1章 総論	2 平成23 年プランの 進捗状況と 課題	—	現プランは10年計画であり、その前にもプランがあったか と思うが、男女共同参画は進んだのか、進んでいないの か？	—	例えば、県の審議会における女性の登用状況見ると、女 性委員割合や、委員の男女割合が4割から6割の間にある 審議会割合がなかなか伸びない現状があります。 一方で、岩手県は全国に比べればM字カーブの底が浅 く、平成27年度の意識調査においても、一般的に女性が 職業を持つことについて「一生持ち続ける方がよい」という 回答が男女共に初めて5割を超えるなど、変化が見られる 分野もあります。 今回の改訂では「復興・防災」「女性の活躍支援」を重点 的に行うこととしましたが、Ⅲに掲げた「基盤づくり」があっ てこそその重点的な取組なので、意識を変えていくこと、働 きやすい環境を作っていくことを粘り強くやっていく必要が あると考えています。	F: その他
2	③第2章 各論	—	—	「Ⅰ 東日本大震災津波からの防災における男女共同参 画の推進」と「Ⅱ 女性の活躍支援」で「政策・方針決定過 程への女性の参画」が重複しているように見える。重要だ から敢えてそうしたのだろうとは思いますが、平時からの男女共 同参画の取組が必要なところ、Ⅰでは「震災があったか ら」Ⅱでは「今、女性の活躍が必要だから」ということで、バ ラバラの取組になっているように見える。連携が必要なの ではないか。	—	「政策・方針決定過程への女性の参画」がⅠにもⅡにも出 て来ることはご指摘の通りです。 これは、「復興」という岩手県独自の事情における「女性の 参画」を強調・重点化したいということです。Ⅱの「女性の 参画」は「女性の活躍支援」の中に位置付けましたが、従 来から取り組んできている審議会への女性登用や市町村 への働きかけといった「平時の女性参画」も含まれていま す。 本来であれば、全ての分野において「女性の参画拡大」 は取り組まなければならないと思いますが、今回は「東日本大震 災の発災」という事情もあるので、特に重点化するため、 「復興・防災」の部分にも書いたものです。 なお、男女共同参画は非常に多岐に渡る分野であること から、関係部局と連携を取りながら、プランの推進を図りま す。	D: 参考
3	③第2章 各論	Ⅰ 東日本 大震災津 波からの復 興と防災に おける男女 共同参画 の推進	1 東日本 大震災津 波からの復 興における 男女共同 参画の推 進	(2) 若者や女性をはじめとした多様な主体の参画による 復興の推進 女性、若者の考えを吸い上げる機会を数多く与えてほし い。		プランには「復興に関し、住民等との意見交換会等を行う ときは、女性を始めとする多様な住民の意見を反映させる ことができるよう、それぞれの視点に立った具体的な提案 を出しやすい環境を整備します。」と記載しており、これに 基づいた取組を進めます。	C: 趣旨同 一

番号	プラン素案項目			意 見	類似意見件数 (件)	検討結果(県の考え方)	決定への 反映状況
	大区分	中区分	小区分				
4	③第2章 各論	I 東日本 大震災津 波からの復 興と防災に おける男女 共同参画 の推進	1 東日本 大震災津 波からの復 興における 男女共同 参画の推 進	(2) 若者や女性をはじめとした多様な主体の参画による復興の推進 「若者や女性」という括りを見直すよう提言したい。女・子どもへの差別構造がよみがえる。		本格復興を進めていく上では、特に次世代を担う若者や女性の活躍が重要であることから、このような記述にしています。	E: 対応困難
5	③第2章 各論	I 東日本 大震災津 波からの復 興と防災に おける男女 共同参画 の推進	1 東日本 大震災津 波からの復 興における 男女共同 参画の推 進	(2) 若者や女性をはじめとした多様な主体の参画による復興の推進 具体的な提案を出しやすい環境を整備することはとても良いと思う。ただ主要指標が「男女共同参画の視点からの復興に関する研修受講者数」となっているが、受講された方のその後の行動も重要なので、それについての文言も必要だと考える。		研修を受講した方が適切に行動できるようにすることを目的としていることが明確になるよう、記述を修正します。 【修正前】 被災地における支援者や復興に従事する職員に対して、男女共同参画の視点からの対応についての理解を促進するための研修等を行います。具体的には、復興に係る意思決定の場への女性の参画を促進することや、女性に対する暴力等の被害者を発見した時の対応等を含め、被災者や支援者等の双方が不適切な対応を行うことのないようにすることなどを内容とします。 【修正後】 被災地における支援者や復興に従事する職員に対して、復興に係る意思決定の場への女性の参画を促進することや、女性に対する暴力等の被害者を発見した時の対応等を含め、被災者や支援者等の双方が適切な対応を行うことができるよう、男女共同参画の視点からの対応についての理解を促進するための研修等を行います。	B: 一部反映
6	③第2章 各論	I 東日本 大震災津 波からの復 興と防災に おける男女 共同参画 の推進	1 東日本 大震災津 波からの復 興における 男女共同 参画の推 進	(2) 若者や女性をはじめとした多様な主体の参画による復興の推進 県は、災害時に女性に対する暴力があるということを認識していると捉えているが、地域住民が認識しているかどうかは疑問に感じる。		参考とします。 なお、現在策定中の「いわて配偶者暴力防止対策推進計画」において、県民への広報・啓発に取り組むこととしております。	D: 参考
7	③第2章 各論	I 東日本 大震災津 波からの復 興と防災に おける男女 共同参画 の推進	1 東日本 大震災津 波からの復 興における 男女共同 参画の推 進	(2) 若者や女性をはじめとした多様な主体の参画による復興の推進 ハード面も大切だが、ソフトな面を大切にした復興も大事だと思う。女性の意見や子供の意見等を入れて、もっと意見を集めて、どのように復興すべきなのか、市民の皆さんと一緒に考えていくのが一番だと思う。		プランには「復興に関し、住民等との意見交換会等を行うときは、女性を始めとする多様な住民の意見を反映させることができるよう、それぞれの視点に立った具体的な提案を出しやすい環境を整備します。」と記載しており、これに基づいた取組を進めます。	C: 趣旨同一

番号	プラン素案項目			意 見	類似意見件数 (件)	検討結果(県の考え方)	決定への 反映状況
	大区分	中区分	小区分				
8	③第2章 各論	I 東日本 大震災津 波からの復 興と防災に おける男女 共同参画 の推進	1 東日本 大震災津 波からの復 興における 男女共同 参画の推 進	(3) 男女別統計の活用 「世代別等」の等は様々な方が含まれているかと思うが、具体的に、「男女別はもちろん、世代別は、同居世帯の世帯主世代だけでなく、県民一人一人の意見を取り入れる」くらいの度量で表現し、その意見を様々な分野に反映させてほしい。		県では、「復興に関する意識調査」や「復興ウォッチャー調査」等により、性別・年代を問わず、幅広く県民の皆様からご意見を伺い、復興施策へ活用していることから、その旨記載します。 【修正前】 ○ 復興に係る被災地の住民の意識調査等においては、男女別、世代別等のデータやニーズが把握できるよう、調査方法や集計方法を工夫します。 【修正後】 ○ 復興に係る被災地の住民の意識調査等においては、男女別、世代別等のデータやニーズが把握できるよう、調査方法や集計方法を工夫するとともに、その結果を復興施策へ反映します。	B: 一部反映
9	③第2章 各論	I 東日本 大震災津 波からの復 興と防災に おける男女 共同参画 の推進	1 東日本 大震災津 波からの復 興における 男女共同 参画の推 進	(4) 市町村に期待すること 市の職員が一人一人、研修を受けて、理解していかないと男女参画の視点が生かされない。 現在は、所属でないと分かっていることが少ないと思う。		参考とします。 なお、岩手県男女共同参画センターで実施している出前講座を市町村の職員研修として御利用いただくケースもあることから、今後とも、出前講座の利用拡大に努めるとともに、市町村に対し、男女共同参画の視点をもって施策を実施するよう助言していきます。	D: 参考
10	③第2章 各論	I 東日本 大震災津 波からの復 興と防災に おける男女 共同参画 の推進	2 防災に おける男女 共同参画 の推進	(1) 防災に関する政策・方針決定過程への女性の参画の拡大 沿岸被災地の防災会議には女性がどのくらい入っているのか。また人数を増やす努力をしているのか。女性が様々な会議に参加するということをもっと広めてほしい。		沿岸市町村における女性委員は12人であり、委員総数に対する割合は3.0%となっております。(平成27年4月1日現在) 市町村防災会議における女性委員の参画拡大については、市町村消防防災主管課長会議等において積極的な登用を働きかけるなどの取組を行っているところです。 様々な視点を取り入れた防災対策を行う上で、女性の役割は非常に重要であると考えており、引き続き女性の参画拡大に向けた働きかけを行っていきます。	F: その他
11	③第2章 各論	I 東日本 大震災津 波からの復 興と防災に おける男女 共同参画 の推進	2 防災に おける男女 共同参画 の推進	(1) 防災に関する政策・方針決定過程への女性の参画の拡大 女性委員の量的拡大だけでは、男女共同参画の視点からの防災が推進されるわけではない。 拡大を図るとともに、「女性、あるいは多様な人びとの視点からの意見が反映される仕組みづくり」を盛り込んでいきたい。		参考とします。 なお、県では地域防災計画等を修正する際にはパブリック・コメントを実施し、広く県民の皆様からの意見を募集しています。	D: 参考

番号	プラン素案項目			意 見	類似意見件数 (件)	検討結果(県の考え方)	決定への 反映状況
	大区分	中区分	小区分				
12	③第2章 各論	I 東日本 大震災津 波からの復 興と防災に おける男女 共同参画 の推進	2 防災に おける男女 共同参画 の推進	(2) 災害から受ける影響の男女の違い等に配慮した防災対策の実施 避難場所がまだまだ分からない方々がいらっしやると思うので、避難訓練や防災訓練等をどんどん行っていくべきだと思う。		指定緊急避難場所及び指定避難所については、市町村が指定し、広報誌やホームページ等で公表しているところです。また、県のホームページでも公表しておりますので、ご活用ください。 なお、県や市町村においては、これまでも防災訓練等を行っておりますが、今後もより多くの方が参加できるよう引き続き取り組んでいきます。	D: 参考
13	③第2章 各論	I 東日本 大震災津 波からの復 興と防災に おける男女 共同参画 の推進	2 防災に おける男女 共同参画 の推進	(2) 災害から受ける影響の男女の違い等に配慮した防災対策の実施 被災時の炊き出しについて、「固定的性別役割分担」と簡単に言って欲しくない。男性はガレキの撤去や消防等で活躍し、炊き出しを行う際のたきぎ集めや水汲みなどに力を発揮してくれ、男性が炊き出しに回るというのは現実的ではなかった。男女共同参画では、女性のことだけでなく、男性のことも考えなくてはならない。	1	被災時の役割分担について、「女性だから」「男性だから」という理由で役割を押し付けられたことにより、不自由や辛さを感じたという事例の報告があるので、そういった点については改善していかなければならないと考えてます。	C: 趣旨同一
14	③第2章 各論	I 東日本 大震災津 波からの復 興と防災に おける男女 共同参画 の推進	2 防災に おける男女 共同参画 の推進	(2) 災害から受ける影響の男女の違い等に配慮した防災対策の実施 各市町村で、防災についての講習会を行ってはどうか。		県では、「岩手県地域防災サポーター」を市町村、地域に派遣し、防災に関する知識や、災害時の備えなどについての講演等を行っております。来年度も引き続き行うこととしておりますので、ご活用ください。	D: 参考
15	③第2章 各論	I 東日本 大震災津 波からの復 興と防災に おける男女 共同参画 の推進	2 防災に おける男女 共同参画 の推進	(2) 災害から受ける影響の男女の違い等に配慮した防災対策の実施 災害からの復旧期に、性別役割分担から、女性は炊き出しで被災者がやって当然で、男性は賃金確保のため早期の職場復帰を図ることが見受けられ、非正規雇用が多い女性は「どうせパートなのだ」ということで収入源を失うことにもつながった事実がある。シングルマザーで幼児が居てどこへも行けないという人の復興がなされない。はっきりした文字に表して欲しい。		<p>《現状・課題》に下記の通り追記します。</p> <p>○ <u>また、女性はパート・アルバイト等の非正規雇用が多いため、災害時には解雇・雇止めされるおそれがあるといった課題も指摘されています。</u></p>	B: 一部反映
16	③第2章 各論	I 東日本 大震災津 波からの復 興と防災に おける男女 共同参画 の推進	2 防災に おける男女 共同参画 の推進	(2) 災害から受ける影響の男女の違い等に配慮した防災対策の実施 震災前に避難所として指定されていた施設が、震災後に使えなくなったケースで、現在の避難所がどこなのかがきちんと地域住民に伝わっていないケースがある。今後、もし災害が起こった場合に、どこに避難したらいいのかを、きちんと周知して欲しい。		指定緊急避難場所及び指定避難所については、市町村が指定し、広報誌やホームページ等で公表しているところです。また、県のホームページでも公表しておりますので、ご活用ください。	D: 参考

番号	プラン素案項目			意 見	類似意見件数 (件)	検討結果(県の考え方)	決定への 反映状況
	大区分	中区分	小区分				
17	③第2章 各論	I 東日本 大震災津 波からの復 興と防災に おける男女 共同参画 の推進	2 防災に おける男女 共同参画 の推進	(2) 災害から受ける影響の男女の違い等に配慮した防災対策の実施 防災訓練について、多様な地域の住民みんなが訓練に参加できるように、県、市町村で呼びかけていただきたい。		県や市町村が行う防災訓練では、これまでも地域住民や関係機関等と協働で実施してきているところですが、今後もより多くの方が参加できるよう引き続き取り組んでいきます。	D: 参考
18	③第2章 各論	I 東日本 大震災津 波からの復 興と防災に おける男女 共同参画 の推進	2 防災に おける男女 共同参画 の推進	(3) 防災・災害の現場における女性の参画の拡大 主要指標に女性消防団員の割合も入れてほしい。大災害後は特に活躍が期待される。		女性消防団員の活躍がますます期待され、県内でも増加傾向にある一方で、市町村の取組みには温度差が大きいことから、これを解消することが重要と考えたものです。ご提案のあった事項については、事業等の実施段階で参考とします。	D: 参考
19	③第2章 各論	I 東日本 大震災津 波からの復 興と防災に おける男女 共同参画 の推進	2 防災に おける男女 共同参画 の推進	(3) 防災・災害の現場における女性の参画の拡大 女性団員のいない消防団が多く、女性団員が活動しやすい環境を想像しづらいので、もっと具体的に書いてほしい。「男女の違い等に配慮し」とか、「体力と能力に応じて」等と書いてあれば、女性の参画の拡大が期待できるのではないかな。		いただいたご意見に基づき具体的な表現に修正いたします。 【修正前】 ○女性がいらない消防団がゼロとなるよう、女性消防団員の入団を促進します。また、女性消防団員が活動しやすい環境整備を促進します。 【修正後】 ○女性がいらない消防団がゼロとなるよう、女性消防団員の入団を促進します。また、女性消防団員が十分に能力を発揮できる機能別分団の導入等の環境整備を促進します。	B: 一部反映
20	③第2章 各論	I 東日本 大震災津 波からの復 興と防災に おける男女 共同参画 の推進	2 防災に おける男女 共同参画 の推進	(3) 防災・災害の現場における女性の参画の拡大 防災・災害の現場で活動する団体として、消防団、自主防災組織、婦人消防協力隊等があるが、素案には「婦人消防協力隊」の語句がない。市からの助成金もさほど多くはなく、自らの会費で賄っているのが現状である。立場的にも消防団の付属のような扱いを受けボランティア同様である。是非、他団体と同等の扱いを希望する。		災害時における女性防火クラブ等の活動にみられるように災害対応における女性の役割が大きいことはご指摘のとおりですので、現状認識として記述を追加します。 なお、「他団体と同等の取扱い」については、市町村に対し防災体制の整備等の助言を行う際の参考とします。 【修正前】 ○ 災害対応における女性の役割が大きいことから・・・ 【修正後】 ○ <u>災害時における女性防火クラブ等の活動にみられるように災害対応における女性の役割が大きいことから・・・</u>	B: 一部反映

番号	プラン素案項目			意見	類似意見件数 (件)	検討結果(県の考え方)	決定への 反映状況
	大区分	中区分	小区分				
21	③第2章 各論	Ⅱ 女性の 活躍支援	1 政策・方 針決定過 程への女 性の参画 拡大	『素案』P23に記載のグラフ「今後女性の参画が進むべき分野(複数回答)」で、「議会の議員」に対する期待が際立って高い中(59.7%)、現在、国会議員では女性議員数が83名(全体の9.5%。『JG83キャンペーン』より)、岩手県議会では7名(全体の14.58%)、釜石市議会においては2名(全体の10%)といずれもまだまだ少ない。地域コミュニティにおいても、『素案』の参考指標によれば自治会長が女性の割合が3.2%、PTA会長では9.1%という状況である。体験的にも、市の諸会議に出席すれば女性の参画率が極めて低く、発言を躊躇せざるを得ない場面も少なくなく、女性の声を意思決定の場に反映させるための具体的な方策、数値目標の明示の必要性を強く感じている。		自治会やPTAは各地域において自主的に組織・運営されている団体であることから、会長への女性の登用について県が目標値を定めて施策として取り組むことは困難であり、引き続き、参考指標として数値を把握し公表することとしています。	E: 対応困難
22	③第2章 各論	Ⅱ 女性の 活躍支援	1 政策・方 針決定過 程への女 性の参画 拡大	『素案』では3つの主要指標とともに、施策の方向が示されていますが、「～を働きかける」「～を推進する」という表現が多く、より具体的な方策の明示を求める。		プランでは、県の施策の方向やそれに基づく具体的な施策を示していますが、さらに具体的な個別の事業については予算との関連があるため、現在、各部局において検討を進めているところです。 なお、県が実施したプラン関連事業等については毎年度、年次報告として公表することとしています。	D: 参考
23	③第2章 各論	Ⅱ 女性の 活躍支援	1 政策・方 針決定過 程への女 性の参画 拡大	管理職への女性の登用についての働きかけは、どのように行うのか。		民間企業に対する働きかけは、「いわて女性の活躍促進連携会議」を通じ、情報提供やセミナーの実施等により行いたいと考えています。 なお、女性活躍推進法により、従業者数301人以上の民間事業主には平成28年3月末までに一般事業主行動計画の策定が義務付けられましたが、従業者数300人以下の民間事業主については努力義務となっているので、県からも働きかけを行い、できるだけ計画を作っていただくようにしたいと考えています。 また、地方公共団体については、任命権者が特定事業主行動計画を策定することとなっており、それにより取組が進むのではないかと考えています。	F: その他
24	③第2章 各論	Ⅱ 女性の 活躍支援	1 政策・方 針決定過 程への女 性の参画 拡大	県職員に占める女性の割合はどのくらいなのか。		平成27年4月1日現在の知事部局における女性職員の割合は、23.4%です。	F: その他

番号	プラン素案項目			意 見	類似意見件数 (件)	検討結果(県の考え方)	決定への 反映状況
	大区分	中区分	小区分				
25	③第2章 各論	Ⅱ 女性の 活躍支援	1 政策・方 針決定過 程への女 性の参画 拡大	主要指標となっている「県職員管理監督者に占める女性の割合」という「管理監督者」とは、管理職だけなのか、管理職相当の人も含むのか。 学校は「教職員の管理職に占める女性の割合」となっており、なぜそのような差をつけたのか。 また、国では都道府県の本庁課長相当職に占める女性割合15%、本庁係長相当職に占める女性割合30%という目標を打ち出したが、岩手県の目標値が22%でいいのか、検討の経緯を教えてほしい。		管理監督者には、いわゆる管理職だけではなく、県の職位で言えば管理職の下位の職位である主任主査、主査を含みます。 プランでは、「政策・方針決定過程への女性の参画拡大」を目指していますが、県職員の場合、主査以上の職位は、いわゆる係の総括業務を担うことができる職位であり、政策・方針決定過程において重要な位置にあることから、主査以上としたものです。 目標値は、主査以上の職位に到達するのは概ね40歳以上であることから、目標年度において40歳以上に占める女性職員の割合をもとに算出したものです。	F: その他
26	③第2章 各論	Ⅱ 女性の 活躍支援	1 政策・方 針決定過 程への女 性の参画 拡大	教職員の管理職割合については、高かった時期があったが、学校の統廃合より学校数が減少し、女性管理職も減少してきている。どのように対応するのか。		教職員の管理職に占める割合を高めるためには、職員や職場の意識を高める取組のほか、働きやすい環境づくりも必要と考えており、女性活躍推進法第15条に定める特定事業主行動計画に基づき、具体的な取組を進めていくこととしています。 【検討中の取組(例)】 職員の能力開発・キャリア形成支援のための研修、多忙化解消の取組と連動したワークライフバランスの推進等	D: 参考
27	③第2章 各論	Ⅱ 女性の 活躍支援	1 政策・方 針決定過 程への女 性の参画 拡大	審議会の女性比率について、法令で定めのあるものや人数が少ないものを対象外としているが、女性の参画を増やすよう取組むことが求められているものであり、特に防災会議は沿岸市町村の参画割合を指標としていることから、全ての審議会の割合とするべきである。	1	本指標は、行政の政策・方針決定過程における男女共同参画を示す指標として設定しています。「法令により職が指定されている委員が多数を占める」、「法令により選挙で選出される委員が全部又は多数を占める」、「委員定数が3名」のいずれかに該当する審議会は主要指標の対象外としていますが、参考指標ではこれらの審議会を含む数値を把握し、公表しています。	E: 対応困難
28	③第2章 各論	Ⅱ 女性の 活躍支援	1 政策・方 針決定過 程への女 性の参画 拡大	第4次男女共同参画基本計画において、国は「各役職段階に占める女性の割合」として、係長相当職、課長・課長補佐相当職等に分けて数値目標を掲げている。係長と課長では、管理監督のレベルが異なることから、素案の係長職以上ではなく課長以上とするか、国にならって役職別に指標を掲げることを検討願いたい。		プランでは、「政策・方針決定過程への女性の参画拡大」を目指していますが、県職員の場合、主査以上の職位は、いわゆる係の総括業務を担うことができる職位であり、政策・方針決定過程において重要な位置にあることから、主査以上の職に占める女性の割合を指標としているものです。 なお、今後、女性活躍推進法に基づき、県の女性職員の活躍をより一層推進するための特定事業主行動計画を策定中であり、いただいたご意見については、同計画において検討します。	D: 参考

番号	プラン素案項目			意 見	類似意見件数 (件)	検討結果(県の考え方)	決定への 反映状況
	大区分	中区分	小区分				
29	③第2章 各論	Ⅱ 女性の 活躍支援	2 女性の 職業生活 における活 躍の推進	(5) 女性の活躍に取り組む企業に対する支援 仕事と生活の調和を推進するため、「産学官連携のイクボス宣言実現と中小企業のイクボス育成の取組推進」を行い、大々的に周知していくのはどうか。		参考とします。 なお、プランでは「事業所におけるワーク・ライフ・バランス(仕事と生活の調和)や女性の登用を推進するための経営者研修を開催する」と記載しており、これに基づいて行う研修の中で、「イクボス」についても取り上げていきたいと考えています。	D: 参考
30	③第2章 各論	Ⅱ 女性の 活躍支援	2 女性の 職業生活 における活 躍の推進	(5) 女性の活躍に取り組む企業に対する支援 地域説明会に、実際にWLBや雇用環境の整備を推進してもらわなければならない企業の方々が出席していない。企業の経営者や人事担当の方に意識付けをして推進していかないと数字が上がらないし、働いている方々も進んだという実感が持てない。企業は法律で縛られれば取り組むが、こういった県の方針には拘束力も罰則もないので知らない方が多い。せっかく立派なものを作ったのだから、もっと企業の方々に周知徹底していかないと、効果が上がらないのではないかと。あるいはそういった経済団体の会合等に県の担当者が赴いて説明するなど、実際に企業の経営者や人事担当者に話をした方がいいのではないかと。		参考とします。 なお、県が実施している企業向けセミナー等の事業について、企業の方々が集まる会合においてチラシを配布する等、周知に努めており、いわて女性の活躍促進連携会議の構成団体とも協力して取組を進めます。	D: 参考
31	③第2章 各論	Ⅱ 女性の 活躍支援	3 ワーク・ ライフ・バ ランス(仕事と 生活の調 和)の推進 のための環 境づくり	(3) 指標関係 男女の育児休業取得の指標を入れてほしい。		参考指標に追加します。 指標名: 育児休業取得率(男性) 単位: % 現状値(H26): 1.4 指標名: 育児休業取得率(女性) 単位: % 現状値(H26): 89.0	A: 全部反 映
32	③第2章 各論	Ⅱ 女性の 活躍支援	4 男女均 等な雇用機 会・待遇の 確保など雇 用環境の 整備	(1) 雇用の場における均等な機会及び待遇の確保の推進 昨今、「マタニティ・ハラスメント」が問題となっているが、「いわて男女共同参画プラン」にはどのように盛り込まれているか。		プランの中では「マタハラ」「セクハラ」という言葉は使用していませんが、 Ⅱ-4-(1)「雇用の場における均等な機会及び待遇の確保の推進」の ○ 労働者が性別により差別されることなく、また、働く女性が母性を尊重されつつ働き続けることができるよう、男女雇用機会均等法などの関係法令や国の助成金制度について、国と連携しながら周知を図ります。 の部分がそれに該当します。	F: その他

番号	プラン素案項目			意 見	類似意見件数 (件)	検討結果(県の考え方)	決定への 反映状況
	大区分	中区分	小区分				
33	③第2章 各論	Ⅲ 男女共 同参画社 会の実現に 向けた基盤 の整備	1 男女共 同参画を推 進する教 育・学習の 充実	(0) 現状・課題関係 「我が国の男女共同参画が国際社会の取組と連動していることに鑑み、国際的な女性の人権に関する問題への理解を深める必要があります」とあるが、言うまでもなく、男女共同参画は女性の人権問題にとどまらない。「女性の人権に関する問題」の部分について、「性別と人権に関する問題」に表現をあらためることをご検討いただきたい。		「国際社会の取組」とは、国連をはじめとする国際的な女性の地位向上に係る動きを指しているものであり、趣旨が明確になるよう、下記の通り修正します。 なお、Ⅲ-2「男女共同参画の視点に立った意識改革と制度・慣行の見直し」に、「性的指向や性同一性障害を理由として困難な状況に置かれている人々に対する人権尊重の観点からの配慮が必要です。」と記載しています。 【修正前】 ○ 我が国の男女共同参画が国際社会の取組と連動していることに鑑み、国際的な女性の人権に関する問題への理解を深める必要があります。 【修正後】 ○ 我が国の男女共同参画施策が国連を始めとする国際的な女性の地位向上に係る動きと連動して推進されてきていることに鑑み、国際的な女性の人権に関する問題への理解を深める必要があります。	D: 参考
34	③第2章 各論	Ⅲ 男女共 同参画社 会の実現に 向けた基盤 の整備	1 男女共 同参画を推 進する教 育・学習の 充実	(1) 家庭教育の充実 子育てサポーターを養成し、かなりの人数が登録されているが、高齢の方が多く、活動が休止状態。実際に動ける方はそんなに多くないし、市町村との連携があまりないので活動もない、というような話を聞いているが、それについて、何か手を入れるような考えはあるのか。		子育てサポーターについては、ご指摘の通りの課題もあったため、登録者名簿の整理及び更新作業、周知の工夫を行うとともに、全県でサポーターのスキルアップや活用を図る研修会を実施しました。 今後とも、県として各市町村の保健福祉部局等との連携を図りながら、サポーターと必要な団体とのコーディネートを直接行う等、地域における子育て支援の仕組みづくりに取り組んで参ります。	F: その他
35	③第2章 各論	Ⅲ 男女共 同参画社 会の実現に 向けた基盤 の整備	1 男女共 同参画を推 進する教 育・学習の 充実	(2) 学校教育の充実 DV防止対策推進計画では、若年層への教育啓発ということで「子どもの発達段階に即した人権教育の充実」が書かれているが、男女共同参画についても若い年齢からの人権教育の必要性があるが、男女共同参画プランにはどのように記載されているのか。		全体的なことについては、Ⅲ-1-(1)「家庭教育の充実」や(2)「学校教育の充実」に、子育てをする方々への啓発や、学校における児童・生徒に対する教育・啓発について記載しています。 また、Ⅳ-1-(1)「女性に対する暴力を防ぐ環境づくり」の中にも、若年層を対象としたデートDV防止に関する教育・啓発について記載しています。	F: その他

番号	プラン素案項目			意 見	類似意見件数 (件)	検討結果(県の考え方)	決定への 反映状況
	大区分	中区分	小区分				
36	③第2章 各論	Ⅲ 男女共 同参画社 会の実現に 向けた基盤 の整備	1 男女共 同参画を推 進する教 育・学習の 充実	(4) 地域において男女共同参画を推進する人材の育成 男性の男女共同参画サポーターがいない市町村があるよ うだが、女性だけが受ければいいというものではないの で、ここが一番問題だと思っている。ぜひ男性がサポー ター養成講座を受けて、男女共同参画社会を目指す本 当のところはどこにあるのかをしっかりと知って欲しい。今 まで通り、男女共同参画センターにやってください、とい うだけで男性のサポーターがいる市町村の割合を100%に できるのか、と思う。		参考とします。 なお、男性サポーターを増やすため、 ① 市町村に対し、男性の受講者を推薦するよう、働きか ける。 ② 受講者全体の人数が増えるよう、広く県民に対し、男 女共同参画サポーター養成講座についての周知を図る。 ③ 男女共同参画サポーター養成講座の開催曜日・時間 帯の見直し、開催地域の拡大、外部講座の認定等、カリ キュラムの見直しを行い、男性がより受講しやすくなるよう 改善を図る。 等について、取り組んでいくこととしています。	D: 参考
37	③第2章 各論	Ⅲ 男女共 同参画社 会の実現に 向けた基盤 の整備	1 男女共 同参画を推 進する教 育・学習の 充実	(4) 地域において男女共同参画を推進する人材の養成 男女共同参画サポーターについて、最近、養成講座の受 講者が減っていると聞いている。また、認定された方も、 「どのように活動したらよいか分からない」という声が聞か れる。 養成は随分進んだと思うので、今度は、どのように活動し て、サポーターを活かしていくか、ということをプランに盛り 込んでほしい。	1	市町村と男女共同参画サポーターが協働して事業を行う 場合の支援についての記述を追加します。 【修正前】 ○ 市町村に対し、男女共同参画サポーター <u>認定者との</u> 協働したまちづくり事業の実施について働きかけます。 【修正後】 ○ 市町村に対し、男女共同参画サポーターと協働したま ちづくり事業等の実施について働きかけるとともに、 <u>必要</u> <u>に応じて、具体の事業における助言や情報提供等の支援</u> <u>を行います。</u>	B: 一部反 映
38	③第2章 各論	Ⅲ 男女共 同参画社 会の実現に 向けた基盤 の整備	1 男女共 同参画を推 進する教 育・学習の 充実	(4) 地域において男女共同参画を推進する人材の養成 サポーター養成講座を長年続けて来ているが、サポー ター養成数だけを指標とするのではなく、サポーターがど ういう活動をしているのかという指標を入れないと、人数だ けでは測れないのではないかと。地域に戻ったサポーター が、グループなどを作れば活動しやすいかもしれないが、 個々にバラバラになってしまうと、どうしたらいいか分から ない、という状況。実際に活動できるかどうかを指標にして はどうか。		参考とします。 なお、県では概ね5年に1回程度、サポーターの事後活動 調査等を実施してきており、結果を施策に反映させている ほか、市町村に対し情報提供を行っています。	D: 参考
39	③第2章 各論	Ⅲ 男女共 同参画社 会の実現に 向けた基盤 の整備	1 男女共 同参画を推 進する教 育・学習の 充実	(6) 指標関係 「男女・・・又は内容を知っている・・・」とされているが、名 称を知っていることと内容を知っていることは本質的に異 なり、言葉を知っていることは必ずしも推進の度合いを表 さない。「男女・・・及び内容を知っている・・・」に修正する ことを検討してほしい。		本指標は、男女共同参画に関する意識啓発の成果の度 合いを測る指標として設定していますが、「法の名称を 知っている」との回答も、男女共同参画に関する一定程度 の知識と関心を持っていたらいい現れであると考えて おり、このまま指標として継続することとします。	E: 対応困 難

番号	プラン素案項目			意 見	類似意見件数 (件)	検討結果(県の考え方)	決定への 反映状況
	大区分	中区分	小区分				
40	③第2章 各論	Ⅲ 男女共 同参画社 会の実現に 向けた基盤 の整備	1 男女共 同参画を推 進する教 育・学習の 充実	家庭教育の充実、学校教育の充実、社会教育等、5つの異なる分野について定められていることは、各分野で実施すべきことが具体的に定められていて評価できる。ただし、男女共同参画社会の実現に向けた基盤整備のための教育・学習の充実は、さまざまなステークホルダーの県民だけが対象ではなく、県庁や市町村職員にこそ求められている。男女共同参画担当部署の職員にとどまらず、県庁や市町村職員に対する実施を追記することをご検討願いたい。	1	参考とします。 なお、県では、幹部職員が男女共同参画の専門家から意見を聞く機会を設けたり、管理職に対してダイバーシティ経営に関する研修を実施するなど、様々な機会を捉えて、男女共同参画への理解を深めるよう取組を行っているほか、「次世代育成支援のための特定事業主行動計画」において、県として、多様な働き方を実現する制度の整備、地域における子育てし易い環境づくりへの貢献等に向けて取り組むこととしています。 また、市町村では、岩手県男女共同参画センターで実施している出前講座を職員研修として御利用いただくこともあり、引き続き、市町村職員の方々に男女共同参画について学んでいただく機会を提供していきます。	D: 参考
41	③第2章 各論	Ⅲ 男女共 同参画社 会の実現に 向けた基盤 の整備	2 男女共 同参画の 視点に立っ た意識改革 と制度・慣 行の見直し	(0)現状・課題 「性的指向や性同一性障害を理由として困難な状況に置かれている場合については、人権尊重の観点から配慮が必要です」と、セクシュアルマイノリティについての記述が盛り込まれたことは高く評価できる。一方で、この記述だけでは、セクシュアルマイノリティの人々が置かれた困難な状況について市町村職員や県民には伝わらず、「場合については、・・・配慮が必要」との表現にも違和感がある。当事者の人々が置かれた困難な状況については、自殺総合対策大綱や今年4月の文部科学省課長通知等を引用し、自殺の問題やいじめの問題への取組が必要と指摘されていることや、岩手県高教研による県内高校生に占めるセクシュアルマイノリティの比率等をより具体的に盛り込むことをご検討いただきたい。		これまで本県の男女共同参画施策において、いわゆる性的少数者の方々の現状を把握する取組が行われてこなかったことから、県内の当事者の方々が置かれた困難な状況を具体的に記述することは困難であると考えています。 なお、プランには「性的指向や性同一性障害を理由として困難な状況に置かれている人々を支援するため、男女共同参画センターにおいて相談事業を行います。」と記載しており、相談対応を通じて、県内の現状を把握していきます。	E: 対応困難
42	③第2章 各論	Ⅲ 男女共 同参画社 会の実現に 向けた基盤 の整備	2 男女共 同参画の 視点に立っ た意識改革 と制度・慣 行の見直し	(0)現状・課題 「場合については、・・・配慮が必要」との部分だが、「配慮」を「必要」とするのは「場合」ではなく、セクシュアルマイノリティの「当事者」や「人々」である。表現の修正をご検討いただきたい。		御意見を踏まえ、下記の通り修正します。 【修正前】 ○ 性的指向や性同一性障害を理由として困難な状況に置かれている場合については、人権尊重の観点からの配慮が必要です。 【修正後】 ○ 性的指向や性同一性障害を理由として困難な状況に置かれている人々に対する人権尊重の観点からの配慮が必要です。	A: 全部反映

番号	プラン素案項目			意 見	類似意見件数 (件)	検討結果(県の考え方)	決定への 反映状況
	大区分	中区分	小区分				
43	③第2章 各論	Ⅲ 男女共 同参画社 会の実現に 向けた基盤 の整備	2 男女共 同参画の 視点に立っ た意識改革 と制度・慣 行の見直し	(1) 意識啓発と制度・慣行の見直し 「自分らしく・・・, 性的指向や性同一性障害を理由として困難な状況に置かれている人々を支援するため, 男女共同参画センターにおいて相談事業を行います」と, 岩手県のセクシュアルマイノリティの人々が置かれた孤立や社会的排除, 差別等の現状に即した具体的な施策が盛り込まれたことは高く評価できる。第4次男女共同参画基本計画でも「性的指向や性同一性障害」と併記されているが, ご存じのとおり「性同一性障害」は性別違和のある人や性別を越境して生きる人々のほんの一部の人々を指すにすぎない。については, 「性的指向や性別自認」と表現を修正することをご検討いただきたい。		いわゆる「性的少数者」の方々を指す様々な用語が、それぞれの文脈においてそれぞれの意味で使用されている現状があると認識しております。そこで、本プランでは国の第4次男女共同参画基本計画に倣い「性的指向や性同一性障害」という用語を採用しています。	E: 対応困難
44	③第2章 各論	Ⅲ 男女共 同参画社 会の実現に 向けた基盤 の整備	2 男女共 同参画の 視点に立っ た意識改革 と制度・慣 行の見直し	(1) 意識啓発と制度・慣行の見直し 今回新たに「性的指向や性同一性障害を理由とした困難な状況に対する理解」等が盛り込まれたことについては好感を持っている。 今後、意識啓発も行われると思うが、例えば「働く女性のためのキャリアアップセミナー」等について、「体は男性だが心は女性」という方でも参加できるということを明記するような配慮があるとよい。		参考とします。 なお、今後、性的指向や性同一性障害を理由とした困難に直面している人々の状況やニーズに対する理解を深め、必要な配慮について検討していきます。	D: 参考
45	③第2章 各論	Ⅲ 男女共 同参画社 会の実現に 向けた基盤 の整備	2 男女共 同参画の 視点に立っ た意識改革 と制度・慣 行の見直し	(1) 意識啓発と制度・慣行の見直し 「性的指向や性同一性障害を理由とした困難な状況に対する理解を深めるため、行政及び関係機関の職員等を対象とした研修を行います」と、行政の職員を対象とした研修が盛り込まれたことは、非常に画期的であり評価できる。一方で、「状況」に対する理解を深めるというより、「・・・を理由とした困難に直面している人々の状況やニーズに対する理解」を深めていただきたい。「性同一性障害」という表現については、国の計画が限定的な表現になっている、県のプランにおいては一步踏み込んだ書き方にしていただきたい。		御意見を踏まえ、下記の通り修正します。 【修正前】 ○ 性的指向や性同一性障害を理由とした困難な状況に対する理解を深めるため、行政及び関係機関の職員等を対象とした研修を行います。 【修正後】 ○ 性的指向や性同一性障害を理由とした困難に直面している人々の状況やニーズに対する理解を深めるため、行政及び関係機関の職員等を対象とした研修を行います。	B: 一部反映

番号	プラン素案項目			意 見	類似意見件数 (件)	検討結果(県の考え方)	決定への 反映状況
	大区分	中区分	小区分				
46	③第2章 各論	Ⅲ 男女共 同参画社 会の実現に 向けた基盤 の整備	2 男女共 同参画の 視点に立っ た意識改革 と制度・慣 行の見直し	(4) 指標関係 これらのことについて、主要指標が掲げられていない。相談件数や相談員の数、研修を受ける行政職員の数や研修の回数等、初めての施策について成果指標を掲げるとは難しいと思うので、せめて実施指標でも掲げてほしい。また、「みなさんに期待すること」の「市町村に期待すること」に、セクシュアルマイノリティについての住民への意識啓発も明記するよう検討して欲しい。		これまで本県の男女共同参画施策において、いわゆる性的少数者の方々への理解を深める取組が行われてこなかったことから、現時点での目標値の設定は困難ですが、プランに基づき、取組を進めます。 また、岩手県男女共同参画センターを拠点として、県民の方々が、性的指向や性同一性障害を理由とした困難に直面している人々の状況やニーズに対する理解を深められるような学習の機会を提供していきます。	D: 参考
47	③第2章 各論	Ⅲ 男女共 同参画社 会の実現に 向けた基盤 の整備	3 家庭に おける男女 共同参画 の推進	(1) 家事・育児・介護への男性の参画の促進 プランを作成する際は、どうしても「課題」に目を向けることとなるが、岩手県の長所があればそれを伸ばしていく、という視点を持つてはどうか。 例えば、ソニー生命保険株式会社が公表した「47都道府県別 生活意識調査2015」の結果によれば、岩手県は「夫がよく家事に参加している」が3位、「夫がよく子育てに参加している」が2位、という結果だった。		本県における共働き世帯における妻の家事労働時間に対する夫の家事労働時間割合は約3割であり、まだ不十分ではないかとの指摘があることから、引き続き課題として捉え、家事・育児・介護への男性の参画の促進に取り組んでいきます。	D: 参考
48	③第2章 各論	Ⅲ 男女共 同参画社 会の実現に 向けた基盤 の整備	3 家庭に おける男女 共同参画 の推進	(2) ひとり親家庭等への支援 雇用の支援が重要。非正規・パート労働が女性の生活をしくくしている。生活支援だけではなく、雇用の部分について、もう少し踏み込んだ記述ができないか。		「Ⅱ 3(1) 仕事と子育て・介護の両立を図る労働環境の整備」に、正規雇用の拡大についての記述を追加します。 【修正前】 ○ 岩手労働局等と連携し、雇用の維持、長時間労働の抑制等の「働き方改革」や男性も含めた育児休業の性別にかかわらずの取得促進の取組、賃金などの労働条件の改善等について、企業・団体へ継続して働きかけます。 【修正後】 ○ 岩手労働局等と連携し、雇用の維持、長時間労働の抑制等の「働き方改革」や男性も含めた育児休業の性別にかかわらずの取得促進の取組、 <u>正規雇用の拡大</u> や賃金などの労働条件の改善等について、企業・団体へ継続して働きかけます。	B: 一部反映
49	③第2章 各論	Ⅲ 男女共 同参画社 会の実現に 向けた基盤 の整備	3 家庭に おける男女 共同参画 の推進	(2) ひとり親家庭等への支援 子どもの貧困は女性の貧困。女性に対する相談や保護だけではなく、金銭に係わる支援を持ってやってほしい。母子家庭では、高校・大学進学に係る厳しい現実もあるので、もっと具体的に踏み出してほしい。		参考とします。	D: 参考

番号	プラン素案項目			意 見	類似意見件数 (件)	検討結果(県の考え方)	決定への 反映状況
	大区分	中区分	小区分				
50	③第2章 各論	Ⅲ 男女共 同参画社 会の実現に 向けた基盤 の整備	4 地域に おける男女 共同参画 の推進	市町村と男女共同参画サポーターによる協働事業は、盛岡市で実施したことがあるか。		盛岡市での事業実績はありません。	F: その他
51	③第2章 各論	Ⅳ 女性に 対する暴力 の根絶と女 性の健康 支援	1 女性に 対するあら ゆる暴力の 根絶	(4) 指標関係 「DV防止法…又は内容を知っている…」とされているが、名称を知っていることと内容を知っていることは本質的に異なり、言葉を知っていることは必ずしも推進の度合いを表さない。「DV防止法…及び内容を知っている…」に修正することを検討願いたい。		本指標は、DVに関する意識啓発の成果の度合いを測る指標として設定していますが、「法の名称を知っている」との回答も、DVに関する一定程度の知識と関心を持っている現れであると考えており、このまま指標として継続することとします。	E: 対応困難
52	③第2章 各論	Ⅳ 女性に 対する暴力 の根絶と女 性の健康 支援	1 女性に 対するあら ゆる暴力の 根絶	(4) 指標関係 主要指標となっている「DV相談員研修参加者数」の目標値が現状と比べて下がっているが、相談・保護に携わる人材の育成は重要であり、市町村でも取り組まなければならないと思うが、県の方にもお願いしたいところ。現状値61人から目標値50人に減ってしまっているが、見直す予定はないか。	2	DV相談員研修の主な対象者は、DV相談支援センター相談員・市の婦人相談員・町村のDV相談担当課の担当者を中心とし、相談対応を行う民間団体、弁護士会、警察、婦人保護施設等の職員などにも幅広く参加を呼び掛けているものです。 本指標については、「50人は確実に参加者を確保したい」という最低ラインとして設定しましたが、関係機関の方々にも呼び掛け、より多くの方に参加していただけるようにしていきたいと考えています。	D: 参考
53	③第2章 各論	Ⅳ 女性に 対する暴力 の根絶と女 性の健康 支援	1 女性に 対するあら ゆる暴力の 根絶	「女性に対する暴力」という表記について、DVは男性の被害者もあり、「配偶者からの暴力」という表現には出来ないものか。		「女性に対する暴力」は「配偶者からの暴力」に限らず性犯罪、売買春、セクシュアル・ハラスメント等が含まれること、暴力は性的指向や性同一性障害の有無にかかわらず親しい間柄で起きることがあること、国においては「女性に対する暴力」という表現を使っていること等、様々な点を検討した結果、今回の改訂においては、「女性に対する暴力」という表現のまま継続することとしました。 なお、男性が被害者になるケースもあることや、同性カップルの間でも暴力は起こる事があること等を念頭に置いて取組みを進めて行きます。	D: 参考
54	③第2章 各論	Ⅳ 女性に 対する暴力 の根絶と女 性の健康 支援	1 女性に 対するあら ゆる暴力の 根絶	被災したことによる家庭破壊が多かった。離婚が増えたり、DVもあったと思う。子どもの虐待も増えていて、現実はかなり厳しくなっている。もっと実態に即するような計画であってほしい。プランのどこがどうというわけではないが、全体的に現実を引き上げる取組をやってほしい。		参考とします。	D: 参考

番号	プラン素案項目			意 見	類似意見件数 (件)	検討結果(県の考え方)	決定への 反映状況
	大区分	中区分	小区分				
55	④第3章 計画の推 進	1 それぞ れの役割と 連携	—	(5) 市町村 市町村がサポーターとどう連携を取って、何を取り組んで 行こうとしているのかが見えない。		県では、市町村が男女共同参画サポーターと協働してま ちづくり事業等を実施することを期待しており、県の支援 についての記述を追加します。 Ⅲ4 地域における男女共同参画の推進 【修正前】 ○ 市町村に対し、男女共同参画サポーター <u>認定者との</u> 協働したまちづくり事業の実施について働きかけます。 【修正後】 ○ 市町村に対し、男女共同参画サポーターと協働したま ちづくり事業等の実施について働きかけるとともに、 <u>必要</u> <u>に応じて、具体の事業における助言や情報提供等の支援</u> <u>を行います。</u>	B: 一部反 映
56	④第3章 計画の推 進	1 それぞ れの役割と 連携	—	(5) 市町村 市の担当者に1人くらい男性がいればいいのではないかと 思う。兼務なのはやむを得ないが、力強く進めるためには 職員も増やした方がいいと思う。		参考とします。 なお、御意見については市町村にもお伝えします。	D: 参考
57	④第3章 計画の推 進	1 それぞ れの役割と 連携	—	(5) 市町村 各市町村に男女共同参画に特化した部署の設置、または 専門職員の配置を要望する。市では、男女共同参画担当 職員はすべて兼務である。特に来年度は国体が控えてい ることを考えれば、兼務では窓口対応や計画の実行の迅 速性に不安が残る。国体や国勢調査などがあるからと 言って、DVが止むわけではない。市に対しても要望して いくが、県としても市町村への強い働きかけを求める。		市町村における組織や職員の配置については、各市町 村の判断によるものと考えています。	E: 対応困 難
58	④第3章 計画の推 進	1 それぞ れの役割と 連携	—	(6) 県 男女共同参画センターの役割や何を業務としているのか が分からない(情報とつながりがない)。広い岩手県にお いて、一部地域での活動になっているのではないか。地 域格差が大きい。もう一度基本に戻っての見直しが必要 だと思う。	1	参考とします。 なお、男女共同参画センターが性別や年齢、地域を問わ ず、誰もが気軽に利用しやすい施設となるよう、事業の出 前や、市町村の取組への支援、情報ネットワークの活用 等に取り組みます。	D: 参考

番号	プラン素案項目			意 見	類似意見件数 (件)	検討結果(県の考え方)	決定への 反映状況
	大区分	中区分	小区分				
59	④第3章 計画の推 進	1 それぞ れの役割と 連携	—	<p>計画の推進において、素案に記載のとおり、住民に身近な市町村の役割は重要である。しかし、現実には、市町村における男女共同参画推進の体制は、計画が策定されていない地域もあり、また人的資源の面からも、十分に整備されているとは言えない。</p> <p>この現状をふまえると、県からの情報提供や働きかけ等、具体的方策を明記しそれを実施していくことが、「連携強化」の実効性を高めると考える。</p> <p>(補足) とくに「意識改革・制度・慣行の見直し」においては、市町村との連携が欠かせないものと考えられる。素案に盛り込まれている「地域における推進状況調査・見直しの促進」にあたっての「市町村等との連携」の実質化を期待している。</p>		<p>参考とします。</p> <p>なお、毎年、市町村男女共同参画担当課長会議や市町村男女共同参画担当者研修を実施して県からの情報提供を行っているほか、必要に応じて市町村の男女共同参画担当課を訪問する等、連携しながら取組を進めています。</p>	D: 参考
60	④第3章 計画の推 進	1 それぞ れの役割と 連携	—	<p>県民、企業・団体、市町村それぞれへの期待を分けて書かれており、分かりやすいと思う。岩手県は、県庁の貴室だけではなく、各担当課等を通じてこれらのステークホルダーに「期待」を徹底的に周知し、「期待」が「期待」に終わらずに実施されえるよう、計画の期間中に継続的に働きかけられるよう望む。</p>		<p>参考とします。</p> <p>なお、男女共同参画は非常に多岐に渡る分野であることから、関係部局と連携を取りながら、プランの推進を図ります。</p>	D: 参考
61	⑤主要指 標一覧	—	—	<p>主要指標の目標値はどのように設定したのか。 目標を達成するための具体的な方法はあるのか。</p>		<p>主要指標一覧にそれぞれの指標の考え方及び目標値の考え方を記載しています。</p> <p>これらの目標を達成するための取組の方向性が「目指す姿を実現するための施策の方向」に書いてありますが、個別の事業については予算と関連があるため、現在、各部局において検討を進めているところです。</p>	F: その他
62	⑤主要指 標一覧	—	—	<p>主要指標が掲げられていることは評価できるが、一方で、評価が高く見えるよう設定した指標のように見受けられる部分がある。現状を確認し、努力により到達可能か到達すべきレベルに指標を設定するべきです。また、指標の中に、講座の参加者数等が掲げられていますが、これは成果指標とは言えない。むしろ、参考指標に掲げられた現状値が改善した状態が成果指標となるべきではないか。ご再考願いたい。</p>		<p>主要指標は「県が目標値を定め施策として取り組むもの」として、現状を踏まえ、努力して施策に取り組むことにより達成が可能または達成すべきであると考えられる数値をして設定しています。</p> <p>一方、参考指標は「県が直接施策として取り組むものではないが進捗状況を表すものとして把握し公表するもの」であり、県の取組以外の要素による数値の変動が大きい等により、県として目標値の設定が困難であるものの、継続して数値を把握することが必要であるものとして設定しています。</p>	D: 参考

番号	プラン素案項目			意 見	類似意見件数 (件)	検討結果(県の考え方)	決定への 反映状況
	大区分	中区分	小区分				
63	⑦素案全体に関して	—	—	計画をつくるだけでなく、具体的に実行に移して欲しい。		参考とします。 なお、個別の事業については予算と関連があるため、現在、各部局において検討を進めているところです。	D: 参考
64	⑦素案全体に関して	—	—	課題と施策の方向が対応していないと思われる施策が見受けられる。取組みやすい内容にとどまらず、推進が困難であっても男女共同参画の実現のために取組が必要な施策を掲げる必要があることを今一度ご確認願いたい。		参考とします。 なお、具体的な事業の実施に当たっては、目指す姿を実現することに寄与する内容になっているかを常に検証していきます。	D: 参考
類似意見数合計(件)					7		